

2018
vol.57
no. 4

写真測量とリモートセンシング

目次

〈巻頭言〉 未来に繋ぐ技術を創る	島村秀樹	139
〈カメラアイ〉 屋久島の超巨大杉抽出における航空レーザデータの利用	前田佳子, 廣瀬葉子, 横尾泰広	140
〈原著論文〉 2時期の高解像度空中写真による 鋸路湿原高層湿原の植物群落変化の検出	吉野邦彦, 神田房行	142
〈技術報告〉 日本における誤差論の歴史的考察	中根勝見	152
〈解説〉 UAV 搭載型レーザスキャナを用いた公共測量マニュアルの概要	国土地理院 i-Construction 推進本部事務局	160
〈情報ルーム〉 大阪府北部地震の予測と, その手順	荒木春視	165
〈活動報告〉 ISPRS Technical Commission II Symposium 2018 参加報告	動体計測研究会	167
〈文献抄録〉 Man is to Computer Programmer as Woman is to Homemaker? Debiasing Word Embeddings	落合健太	177
〈文献抄録〉 Making Maps: A Visual Guide to Map Design for GIS	松岡真如	178
〈会のうごき〉		180
〈投稿要領・執筆要領・原稿送付状〉		181

表紙説明: この図は南海トラフの高度段彩を施した赤色立体地図*です。南海トラフではフィリピン海プレートの沈み込みによりトラフ軸から陸側にかけてスラストと呼ばれる低角逆断層が発達しており, 本図からトラフの走向に沿っていくつものスラストを確認することができます。また室戸沖では1946年南海地震の破壊を止めたと考えられている海山の沈み込みに伴って上盤側に土佐ばえと呼ばれる隆起帯が形成されています。さらに紀伊水道から, 紀伊海底谷・日高海底谷・富田海底谷の3つの海底谷を通して流れた乱泥流が紀伊半島沖の潮岬海底谷で一つになり, 南海トラフへと向かう様子が明瞭に可視化されています。本図は, 「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」の一環として, アジア航測株式会社の「赤色立体地図」(特許第3670274号)の特許技術を用い, 陸地はSRTM15+, 国土地理院数値標高データを使用し, 海底はJTOPO30, GEBCO2014, 海上保安庁, JAMSTEC, JEGG500, NOAA等の解像度が違うデータを統合したDEMで生成しました。企画制作/画像提供: 海洋研究開発機構 プレート構造解析研究グループ 山下幹也

*この地図の作成に当たっては, 国土地理院長の承認を得て, 同院発行の数値地図(国土基本情報)基盤地図情報(数値標高モデル)を使用した。(承認番号 平29情使, 第1354号)

本学会のホームページを開設いたしておりますのでご覧ください。

<http://www.jsprs.jp>

E-mail: office-jsprs@jsprs.jp

編集委員

委員長	織田和夫	(ア ジ ア 航 測 (株))
委員	五十嵐保	(リモート・センシング技術センター)
	石塚直樹	(農業・食品産業技術総合研究機構)
	今井靖晃	(国際航業(株))
	木寺幸司	(日本測量協会)
	笹川啓	(国土地理院)
	鈴木英夫	(朝日航洋(株))
	高橋陪夫	(宇宙航空研究開発機構)
	近津博文	(東京電機大学)
	藤野千和子	(日本写真測量学会)
	布施孝志	(京大工学)
	政春尋志	(東洋大工学)
	吉野邦彦	(東京大工学)
	李勇鶴	((株)バラスコ)
	力丸厚	(長岡技術科学大学)